

令和4年度 松田町町政懇話会<寄地区>要旨
 (町長と語ろう!“持続可能な未来を創造する”協働のまちづくり座談会)

日 時：令和4年10月15日(土)午前10時00分から11時30分

場 所：松田町立寄小学校 体育館

出席者：寄地区自治会7名

町：本山町長、田代副町長、高橋参事兼まちづくり課長、鈴木参事兼政策推進課長兼定住少子化担当室長、柳澤観光経済課長、渋谷環境上下水道課長、遠藤教育課長、早野総務課長兼安全防災担当室長、政策推進課(鍵和田、渡邊)

意見交換の記録(●…意見、⇒…回答)

●町民側の出席者が少なく残念。松田町は山間部が多く、近隣と異なり工場誘致が難しい。観光振興に力を入れるべき。

●第六天に水洗トイレを設置してほしい。現状は、町の委託で虫沢古道の会が2箇所の簡易トイレを設置・管理しているが、利用増で清掃が追いつかず、町境にあるため高松山からのハイカーは山北町へ苦情を入れてしまう。国や県の補助金も使い、2町共同で整備できないか。

[観光経済課長]

⇒松田側からは水利の問題が難しい。山北町と調整の上、ニーズに応じていきたい。

[町長]

⇒観光振興にトイレ整備は必須。他市も参考に、環境配慮型トイレの設置を考えるなど、知恵を出したい。

●松田山みどりの風遊歩道は、台風で5本の木橋が流された。迂回路を用意したが周知が足りず、道がないとの苦情も来ている。以前観光経済課が作ったA4の看板はわかりやすかったが撤去されてしまった。橋の周辺や町内施設などに新たに案内板を設置し、ハイカーを誘導してほしい。

[観光経済課長]

⇒問い合わせの多いコース。迂回路については町ホームページで案内しているが、安全面も含めて周知に努めたい。効果的な看板の設置については、場所や内容の検討にご協力いただきたい。

[町長]

⇒遊歩道全体を描いた看板に、通行止め箇所を上書きして示したい。撤去した看板については、再度わかりやすいものを設置したい。また、通行止めの解除に向けた橋の修繕についても見積りを取り、来年度予算に計上したい。

●みどりの風遊歩道は、虫沢田代自治会で管理している。迂回路はあるが、もとの道の方を是非整備してほしい。通行の要所であるマス釣りの入口は、橋の上を川が流れている状況で、ハイカーが水浸しになっている。靴濡れ防止に飛び石を置いても、雨の度に流れてしまう。

[観光経済課長]

⇒橋の整備は、重機の入らない中で、沢沿いで掛けても流れる状況が想定されたため、まずは迂回路の相談をさせていただいたところ。諦めた訳ではなく、簡易的かつ安全な橋を掛けるための検討を進めている。釣り場入口については、ごく最近、通れるように対応した。雨による土砂がたまりやすい場所なので、今後も注視していきたい。

[町長]

⇒地域の方の知恵も借りながら改善していきたい。

- 県道710号沿いの東名高速道路工事の残土管理について伺いたい。地震や雨により盛り土が崩壊すれば、寄地区は孤立する。織戸組の残土搬入に対し、町はどのように把握しているのか。
- ゴルフ場を通る町道4号は、弥勒寺自治会が管理委託されているが、高齢化で木々の伐採などに限界がきている。寄地区のイベント集客にも重要なルート。秦野からは2車線来ている。松田側も複線化すれば町の活性化につながる。早期に拡幅してほしい。

[まちづくり課長]

⇒あの場所は神奈川県公共残土捨て場であり、NEXCOと織戸組ではなく、県の外郭団体である技術センターが安全性や作業時間、地質など、すべて管理している。今後も残土は増え、全体的に埋まるだろうと思われる。いただいたご質問は県へ届け、後日回答したい。

[まちづくり課長]

⇒災害時の寄地区の孤立については、太平洋クラブの横を通る町道4号線で、2年前から町がNEXCOに要望し、ゴルフ場側ではなく秦野市の行政財産である山側にY字交差路の狭かった部分を一般車両のすれ違いができる4.5mの幅員に工事してもらった。秦野市のほか、東京電力には電柱の無償移設、太平洋クラブには土地の提供にご協力いただくことで何とか改良できた。ご意見いただいた箇所は土佐原林道から入ってT字路に下りる道だと思う。急勾配で周りに竹や樹木が生い茂っている。現況を確認し、地主の協力を得ながら必要な伐採を進めていきたい。

[町長]

⇒残土については県への確認を進めたい。

⇒町道4号については、地主の協力も必要であり、丁寧に進めたい。国道の整備により、都市部からのアクセスも増えている。計画的に改善できるよう進めたい。

[まちづくり課長]

⇒4号線から土佐原林道の区間の拡幅については用地交渉も必要なため、まずは安全対策として樹木の伐採を優先し、その後、拡幅を検討していきたい。

- どの自治会もここ20年で会員が半減している。子育て世代を呼び込むには、子どもが安心して気軽に遊ぶ公園が必須。寄に自然はあるが、遊具のある公園がない。小学校などで取組みは行われているが、多様性社会に適した教育のためには、まちづくりを根幹から見直してほしい。公園の有無で子育て環境は大きく変わるため、まずは公園整備に力を入れてほしい。

[町長]

⇒子育て世代の方々のご意見として受け止められたと認識している。街中においてもニーズに合っていない公園がある中で、寄地区には公園らしい公園もない状況となっており、改善の必要がある。子どもたちが自由に行って遊べる場所づくりは、子育ての環境として選ばれる上で大変重要な要素になっている。新年度の予算に計上し、計画的に取り組むことが必要と考えている。

●広報まつだ10月号の全戸ポスティングが行われたが、今後はどうなる予定か。元々の配布では、住宅の立地や高齢化などの問題で自治会の負担があったため、良い取組みであると思った。

[町長]

⇒広報紙だけでなく、新型コロナ関連などの松田町からの情報も足したものとなっている。1ヶ月12万円ほどのコストがかかるが、10月いっぱいを目途に皆様からご意見を伺った上で、配布方法などについて総合的に考えながら来年度以降に対応する。

●太陽光パネル事業について、町はどのように推奨しているのか。

[環境上下水道課長]

⇒温暖化により全国的に災害が増えている背景から、国や県、町では太陽光パネルを推進している。寄地区においては、交通網が途絶えた際の対応として、屋根の上に設置した太陽光パネルで発電した電気エネルギーの活用が可能となる。

[町長]

⇒町では、パネル1kW当たり2万円、最大10万円の補助を行っている。また、災害時の蓄電池の確保を目的として、電気自動車購入についても3年間で計60万円の補助を行っている。さらにエコキュートなどの高効率燃料交換システムの導入補助も行い、CO₂を排出しないような取組みも行っている。

[環境上下水道課長]

⇒その他のスマートハウスの補助金などについても、町ホームページで紹介している。

●太陽光パネルの耐用年数は何年か。

[町長]

⇒太陽光パネルの耐用年数は平均20年と認識している。また、家庭用のものは15年程度と言われている。

●SDGsの取組みとして、太陽光パネルの廃棄の補助についても考えはあるのか。

[町長]

⇒現在、全国的に太陽光パネルの処分技術に関する研究の向上や、ガラスとの分解処理も一部では開始されていると認識している。町としては世界的な経済状況よりもCO₂の削減が第一であり、あらゆる手段で考える必要がある。廃棄については現時点で考えていないが、今後再利

用などが可能になれば、改めて考える必要がある。

- 自治会の中で、新松田駅周辺整備について意見が出た。新しい駅ビルにどのような機能が入るのか明確にされていない。1市5町の公共交通網の起点になると考えられるため、医療や商業、宿泊施設などの機能を第一に誘致していただきたい。地域ブランドの自負があれば、住民のグレードも上がり、周辺の活性化にも寄与するのではないか。

[まちづくり課長]

⇒10月2日に行ったワークショップでは、駅利用者や地権者を対象に、駅前に必要な機能について様々な意見や要望を伺った。病院や書店をはじめ、駐車場の整備、マンションの建設、日用品を取り扱う商店や個人店の誘致のほか、過去には近隣の企業から出張の際に宿泊できるホテルの誘致などの要望、クリニックや薬局等を集約したメディカルシティなどの提案もあった。こうした駅ビルの整理等については、今後、組合形式で実施していくが、誰が主体となり、お金を出すのか、また、町が持つ公共施設などの機能についても検討しているため、十分注意しながら進めていきたい。

- 中津川周辺の整備・管理の方法について、自治会では草刈り等の協力を行っているが、寄地区は高齢化が顕著であり、今後活動ができなくなる可能性がある。より広域に募集をかけ、自然が好きな人などの協力を得ながらイベントとして打ち出せば、外部から人を呼び込むことができるのではないか。クリーンキャンペーンだけでは維持が困難であるため、今後の手法として検討していただきたい。

[町長]

⇒寄地区のファンの方々を対象に草刈りなどの取組みをイベント化し、地域の方々とコミュニケーションが取る機会にできれば良いと考えている。また、有害鳥獣対策として、若手ハンターを対象にジビエ体験などを通して寄地区の猟友会への勧誘などが行われており、都心部に住む方々とのマッチングもあるため、そういった繋がりにも期待をしている。

[観光経済課長]

⇒町では、地域清掃活動のイベント化を図ったことがあるが、集客要素が足りなかった。地域活動の付加価値が重要となるため、皆様からもご提案・ご協力をいただきながら、PRの方法を検討していきたい。

以上

令和4年度 松田町町政懇話会<松田地区>要旨
(町長と語ろう!“持続可能な未来を創造する”協働のまちづくり座談会)

日 時：令和4年10月15日(土)午後2時00分から3時30分

場 所：松田町生涯学習センター 展示ホール

出席者：松田地区自治会12名

町：本山町長、田代副町長、高橋参事兼まちづくり課長、鈴木参事兼政策推進課長兼定住少子化担当室長、早野総務課長兼安全防災担当室長、石渡子育て健康課長、椎野福祉課長、政策推進課(鍵和田、金谷)

意見交換の記録(●…意見、⇒…回答)

●駅周辺の開発スケジュールについて、本日の資料には「駅周辺整備のスケジュール」が掲載されているが、第6次総合計画から一貫しておらず、時期がずれ込んでいる。駅周辺の開発を何年に終わらせるという目標値はあるのか。また、開発は部分的に進めるのか、あるいはエリア全体を一気に進める計画なのか。さらに、完成に向けた細部の計画などがあれば公表していただきたい。これまでの説明会や資料等では情報が不明瞭であり、先日のワークショップでも具体的なものは示されなかった。

[まちづくり課長]

⇒駅前周辺の整備については、駅前広場や集約施設、橋上駅舎などの複数の施設に分類され、これらが連動しながら順当に進められている。駅前広場と集約施設については、今年度に検討会を立ち上げ、今年度末に再開発準備組合を設立する予定となっている。来年度には再開発組合の設立を目指し、併せて都市計画決定や警察との協議を行いながら、その後に用地買収を開始し、令和9年には広場工事に着手する予定となっている。暫定供用期間を含め、令和14年度から15年度の完成を目標としている。集約施設については、これから組合施工という形で地権者との協議を行った後に、駅ビルの規模などが決まってくる。橋上駅舎等に関しては、これから2年間小田急電鉄と協議を行い、基本設計や詳細設計を進め、工事の着手は令和11年度を目標としている。

●今後の工程は理解したが、第6次総合計画で示されている新松田駅北口周辺整備の工程と大幅にずれ込んでいるのはなぜか。実行計画では“優先”と書かれていながら、大きな食い違いが発生するのはなぜなのか。

[まちづくり課長]

⇒確かに、4年前に検討した工程からはずれ込んでいる。しかし、地権者との協議を重ねながら進める事業であるため、ご理解をいただきたい。工期が遅れている点は大変申し訳ないと思っている。町としては優先事業として取り組み、対応をしているが、近年はコロナなどの影響もあり関係者に集まっていただくことも難しくなっている。今後はより一層ギアを上げ、早期完成を目指す。

- 今後の計画が大幅に変更になっているが、開発や都市計画に関する情報が入ってこないため、地元や地権者は不安に思っている。情報は分かるような形で掲示してもらいたい。

[まちづくり課長]

⇒現在行っている事業の情報をなかなか表に出せていないが、地権者の方々には検討会に入っただけ、コミュニケーションを取り始めている。皆様の不安を解消できるよう、近隣の地域に対してもより一層広報するよう対応する。

[町長]

⇒総合計画の工程は4年前の予測に基づいていることや、駅周辺整備は本当に時間がかかる事業であることをご理解いただきたい。権利者との検討会を立ち上げ、デベロッパーを決定していくことで、ようやく完成までの流れが見え始めるようになる。当初のスケジュールからは遅れているが、単純な遅延ではなく、然るべき工程になってきた結果であると認識している。国や県からもアドバイスをもらいながら、今回お示しした工程からは遅れないように対処する。また、小田急電鉄との連携については、町として進めるべき事業に対する理解はいただいているため、今後も歩調を合わせ、相談しながら対応していきたい。

- 廃朽家財の有効活用による廃棄量の削減と、空き家バンク制度の拡充についてご提案したい。廃朽家財の処分や持ち込みは、受け入れ側の容量の限界がある。そのため、まだ使える家財については、修理やメンテナンスを行った上でまとめて貸し出せば、学生入居支援の際の備品として活用できるのではないかな。

[町長]

⇒町として最大の課題は人口減少であり、地域コミュニティの低下や自治会活動の担い手不足が懸念されることから、学生をターゲットにした事業を開始しており、その1つとして空き家バンク制度がある。町としてリサイクルを受けて修繕することは、SDGsにも関連する提案であると思われるため、体制整備も含めて無駄のない仕組みの実現を検討していきたい。

- こうしたリサイクル事業は、高齢者の新しい雇用の創出にも繋がるのではないかなと思う。ぜひご検討いただきたい

- 資料にもある通り、人口減少が最大の課題であり、長期的には人口増加を目指したいという町の取組みは理解しているが、このままでは減少するばかりであるため本格的に対策を考えなくてはいけないと思う。

[町長]

⇒現在の人口はおよそ10,500人で、2040年の目標人口は1万人であるが、この1年半だけで360人ほど減少している。単身世帯の移住や企業数が減少していることが原因として考えられ、また、急激に亡くなる方も増え、生まれてくる子どもたちも減っている。このままでは、特に子育て世帯への支援を行っていかなければ若い人たちが増えない。町内ではいくつかの分譲地が現在開発中であるが、この歩みを止めないよう、空き家バンク制度の拡充や遊休地の利活用など、移住を受け入れる側の体制も含めて強化する必要がある。

- 食育の大切さを理解していただくために、管理栄養士を呼んで講演会を実施していただきたい。子ども達と関わるなかで、お母さんたちの食育に対する関心が低いように感じている。これから松田町を担う子どもたちのために、町としてお母さんたちへ食育の話を聞いてもらう機会を作る必要があると考えている。

[子育て健康課長]

⇒離乳食の講習などの機会もコロナの影響で減っている。教育課とも連携して新しいことを考えていきたい。

[町長]

⇒ご意見を受け止め、担当課とも話をしていきたい。また、お母さん方は食育に興味が無いのではなく、身近に参加しやすい機会がないのではないかと思われる。参加しやすいタイミングや開催方法など、お母さん方の目線に合わせて検討したい。

- 仲町にあるスーパーが、11月末で小売りを閉店し、卸売りに専念すると伺っている。新松田駅周辺の開発など色々な話題が出ているが、もっと町民の日常生活に目を向けてもらえないか。分譲地開発や学生入居などを進めても、買い物が不便な町を移住先として本当に選んでもらえるのか。綺麗事ではなく、日常生活が過ごせる、町民に優しい町を考えていただきたい。町の高齢者比率はおよそ35%であり、車を持っていない方も多。その点について町は議論をされているのか。

[町長]

⇒スーパーの閉店により日常生活が厳しくなることは、町として重く受け止めている。店の決断に対して町は介入できないが、タクシーの初乗りやデマンドバスの運行、移動スーパーの時間改善などの検討を進めている。町としては、町民の暮らしの安全・安心を守ることが第一であり、こうした座談会などを通してご意見をいただきながら進めて行く。

- 移動販売にも限界がある。商工振興会とも話をしなくてはいけないが、対応する時間はいくらかでもあったのではないか。色々な事業を進めることは良いが、町民のための事業になっていないと感じている。責任を持って、もっと町民の実状や現場に目を向けてほしい。

- 私は車の運転をやめており、山北町の小田原百貨店まで買い物に行っている。スーパーが閉店すれば、松田町には八百屋もなくなってしまう。コンビニやドラッグストアでは多少野菜を取り扱っているため、例えば、野菜売り場の増設などを交渉できないかと考えている。八百屋も本屋もない町では情けないと思う。駅前の物産店も、現在は地元の生産物のみの販売だが、より幅広く商品を取り扱ってもらうことなどはできないのか。

[町長]

⇒物産店については、開店時間も短く、活用しきれていないと感じている。以前は、地産地消の会を通して、豆腐や卵などの商品を置いていただいたこともあったが、在庫の確保が難しく、商品が増えていかなかった。ご意見いただいた現状を踏まえ、コンビニや物産店については、

幅広く対応してもらえないか改めて打診する。

- 酒匂川の左岸の道路に車道を整備するという話を聞いたが、どこが主体で、整備はいつ頃になるのか。この土手は山北高校の生徒も多く利用しており、私も山北町まで通う道として使っているが、場所によって道が狭く、自転車を降りないと通行できない箇所がある。災害時の利用などで車の通行は必要かもしれないが、個人的には、安全に自転車や歩行者が通れる道になってほしいと考えている。

[まちづくり課長]

⇒県の土地ではあるが、事業主体は町で進めている。現在、県に土地の申請をしている段階であり、来年以降に測量や用地交渉などを開始し、完成までにはおよそ5年かかる見込みである。これまではコロナの影響で書面でしか説明会を行っていなかったが、今後は計画の全体像について地元の方にも共有していきたい。また、事業の目的としては、災害時に国道246号線が緊急輸送道路として一般車両の通行ができなくなることや、山北方面への利便性の向上も目指すものとしている。安全対策としては、道路の川側に歩行者が通行できるスペースを残すことを考えている。

- パークゴルフ場について、私はシルバー人材として働いているが、AコースからBコースに架かっている橋が狭く、遠回りしないと芝刈り車両などの通行が難しい。車の通行が容易な広い橋を架けることはできないか。

- 生涯学習センターのカラオケについて、歌詞が表示される画面が小さく字が読みづらい。以前に自前のテレビを持参して接続するなどの工夫はしたが、できれば対策を検討していただきたい。

[町長]

⇒パークゴルフ場での構造物の設置については土木事務所と調整のうえ検討させていただく。また、カラオケの画面表示については、文字が大きく見えるような機械を導入するなど、使い勝手が良くなるよう工夫する。

- パークゴルフ場について、月曜日と木曜日の週2日が休みとなっており、天候が悪いとなかなか行けないことがある。以前のように休みの日も開放することはできないのか。

[町長]

⇒健康のためにパークゴルフ場を使っていただくことが大事であり、開園情報の表示方法についても検討する。

- 今回の町政懇話会の開催方法について、本来であれば町政報告を先に行い、それに対する意見交換をする形式が一般的ではないのか。質問や意見を出そうと思っても後に説明があるかもしれないと思うと躊躇ってしまう。

[町長]

⇒過去に、説明が長くなりご意見を伺う時間が無くなってしまったことがあった反省から、今回は町民の皆様とのキャッチボールを優先させていただいた。町政報告については残った時間で説明し、それに対するご意見は後日ご連絡いただく形とさせていただきたい。

- パークゴルフ場について、①周辺町の施設と定休日をずらすことで相互利用を図ること、②インバウンドの利用促進のため、体験型のアクティビティとして外国人向けの観光ガイドに掲載し発信すること、③ゴルフ場を民間企業に貸し出し、利用してもらうことなど、自主財源の確保に繋がるような取組みはできないか。また、ゴルフ場の利用について、10月から有料化されているが、町内利用者も町外利用者も一律で200円となっている。例えば、町内外で金額を分けるなどの検討はできないか。

[町長]

⇒松田町ではスポーツツーリズムを掲げており、ある程度ターゲットを絞り、既存の施設を活用して新たな観光客を呼び込みたいと考えている。パークゴルフ場の定休日については、曜日の設定意図を確認した上で、他のコースとバランスが取れるよう調整する。また、インバウンドに対して、ホームページなどを通じた発信方法についてはしっかりと工夫をしていきたい。福利厚生イベントとしての活用は、事業者に利用を促すことができる良いアイデアであると感じた。料金についても、全体の整合性を含めて検討させていただく。

- 町民との情報共有について、町からの情報提供が遠慮がちではないか。自治会の負担軽減や電子化も良いが、必要な情報については積極的に提供していただきたい。また、各課をまわって要望を伝える際に、課をたらい回しされることが多い。各課で情報共有ができていないだけでなく、職員も勉強不足なのではないか。人員配置などの問題もあると思うが、町民に分かりやすく、時間が無駄にならない体制を整えていただきたい。

[町長]

⇒情報はコンパクトにまとめ、古くならないように心掛けている。一方で、庁内の横の繋がりについては、各課でも無責任な対応にならないようにした結果、十分な対応ができていないものと思われる。職員に対し、掲示板などで情報共有は行っているものの、なかなか自分ごとになっていないところもある。責任を持って発信させていただく。

- 行政の縦割りにについては、避難所運営においても、場所が学校であることから防災だけでなく教育課や福祉課などにも跨っており、相談窓口の体制に問題がある。その解決に向けては、役場の組織改革を1つの方法として検討していただきたい。

- 昨今、保育園の送迎バスでの園児置き去り事件が問題となっている。松田町では、このような事態を踏まえてどのような安全対策を実施しているのか。また、先日の総合計画の審議会で待機児童について話題があったが、子育て環境として求められていることは量ではなく質であると考えている。子ども達の安全確保をアピールすることによって、子育て世代の転入にも繋がるのではないかと。

[町長]

⇒組織の現状だけでなく、一人一人の職員の責任の持ち方、社会人としてのあり方も含めて対応ができるよう改善していく。送迎バスについては、町としては現在、運転手と先生の2人体制によりヒューマンエラーの発生防止に努めている。また、次回の議会に向けては、更なる防止策への予算提示の準備も進めており、他の市町村よりも早く対応できるよう動いている。

[子育て健康課長]

⇒幼稚園のバスも含め、神奈川県から対策マニュアルの作成を求められている。

以上